

平成26年7月30日(水)

老球の細道 41

平成26年度会津地区中学生スケッチボール サマーキャンプ雑感

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

「古池や蛙飛び込む水の音」。俳人松尾芭蕉の最も知られた作品で俳句の代名詞とも言われている。古い池にカエルが飛び込む平凡な事象に風情を感じるという。同じ「細道」(会津協会ホームページ『老球の細道』)を書く身として、私はカエルから感じさせられるのは風情ではなくてメッセージである。「夏休みだ、自分をカエル(変える)！」。「今こそぬるま湯(現状維持)に浸った自分を振りカエル！」。

中学校、高校の全国大会を逃がしたチームは、ほとんどが3年生が抜け、1、2年生の新チームに切り替わっている。この夏休みはそれらのチームにとってはおおいに変わるチャンス。そんな折、今年も中学校のバスケットボールサマーキャンプが7月27日(日)北会津中学校において実施された。参加者は男子120名、女子100名、コーチングスタッフはミニから一般までの11名が参加する大イベントとなった。

冒頭の開始式で、このサマーキャンプをきっかけに「自分をカエル」「練習を振りカエル」とカエルにかこつけて、「練習の目的」と「がんばる」ということについて話をした。

「練習」の目的は何か。何のために「練習」をするのか。

- 1・悪い習慣を是正し、良い習慣を身につける。
- 2・できることの繰り返しではなく、新しいことへの挑戦である。
- 3・頭と身体の両立で向上すること。「わかった!」と「できた!」が一致すること。

練習を「がんばる」とは具体的にどのような状態なのか。

- 1・手抜きをせず、全力を尽くすこと。
- 2・やる気をもって臨むこと。熱中、集中、夢中。
- 3・頭を使うこと。練習の目的は何か。ポイントはどこか。どの場面で使われるのか。
- 4・楽しくやること。辛いこと、苦しいことこそ楽しいチャレンジがある。

星博之(田島高校)会津協会強化委員長と渡部佳規(若松五中)中学校強化委員長の指示に従って、基礎練習の全体練習と8つのステーションドリルによって進められた。午前中は男子、午後は女子と分かれて、選手の熱意と真面目さ、コーチングスタッフのあふれる情熱によって、コートは気温の暑さより熱気あふれる熱さのほうが上昇してしまった。

長い間サマーキャンプを見ているが、今年の練習は最高だったのではないだろうか。選手の表情が皆明るく真剣で、とにかくありがちな、上手な子が手抜きをするという姿は一切見られなかった。朝9時から夕方5時過ぎまで、一日中声を出しながら熱心に指導してくださったコーチングスタッフの情熱ある指導のたまものである。感謝、感謝。

恒例のキャンプ表彰者は次の通りである。

- ① MVP(最優秀選手): 男子 須藤大夢(一箕2年) 女子 板橋玲奈(若五2年)
- ② MEP(最努力選手): 男子 宇内裕仁(坂下2年) 女子 松本未由(坂下2年)
- ③ シュートチャンピオン賞: 男子 柴田蓮(一箕2年) 女子 永峯祥子(若六1年)

今回参加した中学生が平成29年福島インターハイにおいては中核を占めるプレーヤーになる。是非この中からインターハイ選手が! まだまだ老後を考える余裕はないようだ。